

③ コンクリート診断士を外から観ると

TCD会員 服部隆典

コンクリート診断士の資格を定年退職後 3 年掛けて取得した。きっかけは退職後地域に溶け込もうとして地元の有力者と話をしていると『団塊の世代』は有り余るほどいる、口だけ達者で権利意識が高いマンション住民を地元住民は喜んで迎えないという事でした。そこで有効な技量を持って地元貢献という意図で、現役時代の仕事で経験した事を生かしたもので地元住民があまり持ってない知識と経験を何らかの資格で裏付けるものとして診断士の資格を取得しました。

この資格を持って次に目指した事は、自分の住んでいるマンションの長寿命化と、他のマンション維持管理に対する助言です。建築士がその資格でマンションの維持管理に助言ができる様に、コンクリート診断士もコンクリートの専門家として、特定の分野ではあるが指導助言ができると考えたからです。生まれ育った場所でない処で、今住む地域に住民として溶け込むには何か支援提供できるものが無いとなかなか入り込めません。ましてや地域外から転居してきた人が多いマンション住民は地元民とは目に見えない壁で仕切られているのです。その壁を乗り越える手段が必要です。今はまだ目標の道半ばですが、今後も続けていきます。

話は変わって資格取得後、東京コンクリート診断士会に入会し、各種行事に参加してまいりました。技術フォーラム、技術研修会、交流会等で診断士のスキルアップのため、社会資本の基礎であるコンクリート構造物の長寿命化、最新の行政や企業者の動き、新技術の紹介、診断士受験指導等多くの活動とその現況を知る事ができました。ただ一つ疑問に思った事は、これらの活動と一般社会である外部との結びつきや関係があまり感じられなかった事でした。マーケティングの考えとして『良いものをつくれれば売れるという訳では無い。知ってもらって使ってもらわなければ意味がない。』という言葉があります。自治体、企業者等一般社会とは少し異なる対象が主要顧客であるため、この言葉がそのまま通じる訳ではありませんが、やはり何らかの外部へのアピールは社会貢献と伴に必要と思います。なかなか具体的な手段、方法も見つかりませんがいろいろな処にあるドアを叩き続けて探していきたいと思っています。

一方コンクリート診断士の活動領域である行政のコンクリート構造物点検診断業務仕様書の中に記載してある資格者としてコンクリート診断士が挙げられていますが、残念ながら他の資格、例えば技術士、RC CM, 構造診断士他等と同様な扱いで、特にコンクリート構造物維持管理に対する唯一の資格と評価されていません。その理由は公共工事の入札参加資格を診断士一つにすると資格者が少なすぎて入札業者数が確保できないという事です。特に地方行政は入札業者を地元優先で入札したいために、資格者数の少なさは致命的なようです。コンクリート診断士は現在全国で約 1 万 4 千人いますが、多くは大企業の中にな

籍し、実際コンクリート点検診断業務に携わっている人の実数は非常に少ないと思われます。この点は診断士会、コンクリート工学会で是非一度調査して欲しい事です。

企業者としてJR、NEXCO、首都高、阪高、電力各社、私鉄等は、自前の施設維持管理の必要性から、自前の技術者を育成保有していますが、自治体特に市町村レベルでは大部分が技術者不足と言われています。現状のコンクリート構造物の数から、特に高度成長期のコンクリート構造物の数が多く老朽化状況から今後一気に需要が高まるため、数の少ない高度な研究者レベルの技術者だけでは構造物長寿命化の需要を満たす事は困難で、多少技術レベルは浅くても広い見識を持った町医者（患者の要望の95%は対応できます、残りの専門性の高い5%は専門医を紹介します）レベルの診断士が多数必要と思います。

一つ提案ですが、コンクリート診断士の増加拡大のためには公共事業入札条件で、資格者としてコンクリート診断士を他の多くの資格者より『+1』する事により診断士の需要を増やし、技術者の資格取得へのモチベーションとなると思うのです。コンクリートの専門家を示す資格としてだけでなく、広く診断士が活躍できる場所を拡大するために『みんなのために良いものを売る。』覚悟と行動が必要と思います。私はその覚悟で今後とも活動を続けたいと考えています。コンクリート工学会、コンクリート診断士会もこの提案を受け入れて支援していただけないでしょうか。診断士の皆様が現状を良く診られて、皆様各自がご自分でできる活動をされる様祈念いたします。

文責：服部隆典